

平成29年度（第4回）二宮町社会教育委員会議 会議録

日 時：平成29年11月28日（火）13時30分より

場 所：二宮町生涯学習センターラディアン ミーティングルーム1

出席者：（社会教育委員） 野村幸雄委員長、橘川昭夫副委員長、江見千秋委員、
久保田秀実委員、関口金由紀委員、蓮實茂夫委員、
三宅栄子委員、目黒美砂緒委員
（事務局） 府川教育長、鐘ヶ江教育部長、椎野生涯学習課長、
武井生涯学習・スポーツ班長、佐藤主事

傍聴者なし

資料

- ・会議次第
- ・研究テーマ「将来を担う青少年の健全育成について」

1 開 会

2 あいさつ

3 議題

（1）研究テーマ「将来を担う青少年の健全育成について」

※事務局より前回までの修正・変更点について説明。

（委員長）これまでの変更点について、また表紙の題名を含め、話し合っていきたい。
文章についてだけでなく、二宮町PRキャラクターのニーノミーヤや町の鳥、
町の花などのイラストを入れるなど、他にご意見があったらお願いしたい。

（委員長）表紙の題目についてはどうか。「二宮町」を入れた方がいいか。

（委 員）1 ページに「1. 二宮町青少年の現状」とあるが、現状が二宮町特有と考え、
二宮町の青少年の現状を良い方向へと、そう考えると「二宮町」は入れた方が
いいのではないか。

（委員長）二宮町の青少年について話し合ってきたので、確かに入れた方がいいかもしれ
ない。

（委 員）基本的な事だが、冊子が出来たらどこかに配架や配布をするのか。

（委員長）冊子が完成した後、事務局はどう利用するのか考えているのか。

（事務局）検討中である。社会教育委員の学んできた成果になるが、外部に出すのか、委
員会内の共通理解に留めるのか、ここで決めてもらうのはどうか。

（委員長）時間をかけて作成しているので、何かに利用して欲しい。

（事務局）外部にということであれば、町ホームページに掲載することは可能である。配
布するとなると、どこの分野にどうやって出すのか、検討しなければいけない。

（委 員）配布でなくても、どこかに置くのであれば「将来を担う」という一般的な言葉

では素通りされてしまう気がする。「二宮町」を入れた方が、委員会内だけとするとしても、共有できるのではと思う。

(委員長) 「二宮町の青少年」にし、どこかに置いてもらった方がいいのでは。

(委員) 以前貰った「社会教育委員活動のためのハンドブック」の社会教育委員の職務に、社会教育の諸計画の立案、会議を開いて教育委員会の諮問に応じるとある。教育委員会にテーマ研究の結論を報告という形で提出するのはどうか。今回、教育委員会から諮問を受けたという形ではないが、私たちが2年をかけてテーマについて話し合い、成果としてまとめたので、社会教育委員として、教育委員会に報告という形をとるのはどうでしょうか。

(委員長) これは教育委員会に提出されるものなのか。

(事務局) それも含め、委員の皆さんの意向でと考えている。

(教育長) 来年、一色小学校でコミュニティスクールが出来、二宮小学校、山西小学校でも準備委員会が来年結成される。テーマは地域の中の学校、地域と家庭の力を借りて、学校を核にしつつ、子育てを改めて皆で分担していこうという一つの運動であり、そこにも関連するのでそこで配布をし、今後、学校運営協議会で話し合う一つの基礎的な問題提起がされているので、そういった形で活用が出来ればと思う。町民全体に配布というより、ホームページに掲載が出来るのであれば掲載し、冊子としては、各学校の学校運営協議会、準備委員会のメンバー、教育委員に配り、熟読していただくという形がいいかと思う。

(委員) コミュニティスクールが地域と連携してということで、社会教育委員も教育委員と何か少し接点があった方がいいと思うので、そういった方たちへの配布はいいと思う。

(委員) 教育委員と社会教育委員の繋がりはいずれも大事なものになると思うし、社会教育委員がこういった話し合いをしているということを知ってもらえるのはいい。

(委員長) せっかくなので、ぜひ有効活用をして欲しい。

(委員長) 表紙の題目について、他に何かあるか。

(委員) 表紙に二宮町社会教育委員会と記載があり、1 ページに主旨について記載があるので、必ずしも題目に二宮町を入れなくてもいいと思う。

(委員) 二宮町が入ってもとは思いますが、二宮町を入れて題目が長くなるのもどうかと。

(委員) もともとのテーマは将来を担う青少年という大きな括りではあるが、二宮町を入れて端的に表すのもいいのかと思うが。

(委員) 表紙の題目と研究テーマ名を一致させた方がいいのか。

(委員長) 題目は必ずしも一致させなくていいのではないか。

(委員長) それでは、表紙の題目を「二宮町の青少年健全育成について」にし、研究テーマは当初のまま「将来を担う青少年の健全育成について」とする。

(委員長) 前回からの修正、変更について何かあるか。

(委員長) 7ページの「学校教育は、2020年から」となっているが、元号の平成にした方がいいだろうか。

- (事務局) 一般的に行政では、西暦をあまり使用しない。
- (教育長) 東京オリンピックが2020年と謳っているので、2020年を残し、括弧書きで西暦を入れるのはどうか。学習指導要領はもう変更されているので、ここを正確に言うと、「新学習指導要領が平成32年度から実施されます」である。
- (委員長) それでは「平成32年度(2020年)から新学習指導要領が実施されます」に変更する。
- (委員) 同様に6ページの年号がアルファベット表記となっているので、ここも「平成」に統一した方がいい。
- (委員) 話題は変わるが、6ページの四角で囲ってある「社会教育委員の行動項目」だが、羅列されている行動項目の中に地域の内容も入っているので、社会教育委員の文言をはずし「行動項目」のみにするのはどうか。
- (委員) もともとは社会教育委員と地域の大人の内容が混在しており、それを別に分けた経緯がある。前回の会議で、社会教育委員も地域の大人と同じ立場で行動することを確認し、またここは原文のまま羅列でという記載もあることから、読み手には理解してもらえないのではないか。
- (委員長) ここはインパクトが強い部分でもある。
- (委員) 社会教育委員、中黒、地域の行動項目といった変更はどうか。
- (委員) 行動項目は社会教育委員だけでは出来ないことである。
- (委員長) 構成上、4～5ページで地域の内容、7ページ以降が社会教育委員の内容で、続けてまとめとしている。
- (教育長) ここの前置きが「この委員の行動から、大人へ団体また青少年へと、町内全体に広がることを思いながら、将来を担う青少年達のために、行動することはなにかを考えてみました。」となっており、社会教育委員の行動項目を考えたら、地域についての部分も出てきたということでもいいのでは。
- (委員) ここの部分は新たに章立てをし、「4. 社会教育委員の行動項目」とするのはどうか。
- (委員) 3は大人と地域の関わり、4は社会教育委員の行動項目とするということか。
- (教育長) 社会教育委員がきっかけ作りをするという具体例を出せた方がいい。行動する社会教育委員と言うような。
- (委員長) それではここは章立てをし、「4. 社会教育委員の行動項目」とする。他に何かあるか。
- (委員) 4ページの「現状＝課題」の2行目が7ページと統一されていない。
- (委員長) 7ページに合わせるように修正する。
- (委員) 7ページの行動項目のところだが、括弧書きの原文のまま羅列順不同としているが、これは不要ではないか。
- (事務局) 1ページでKJ法という技法を用いたと記載してあるので、記載が無くても分かるのではないか。
- (委員長) KJ法自体を分からない人もいるのでは。
- (事務局) KJ法についての注釈を入れるのはどうか。

- (委員) 原文のまま羅列順不同の文言は入れた方がいいのでは。この文体だが、前の部分は敬体、行動項目は常体、最後のまとめは敬体で書かれている。その差別化をくっきりさせるにはこの文言があった方がいいと思う。
- (委員長) 原文のまま羅列順不同は残し、KJ法の注釈を入れる。記載については事務局に任せる。
- (事務局) 読みやすさを考え、言葉、文章の整理が必要である。一部の漢字をひらがなへ、また敬体と常体が混在しているところや使用している言葉を統一する。
- (事務局) 1 ページの「スマホの費用は誰が出す？」だが、青少年の現状で疑問形になっているのはどうか。
- (教育長) スマホ費用の出どころということか。
- (委員) スマホの費用が親に負担をかけているということではないか。
- (委員) ここは青少年がスマホに依存している現状があるということだと思うが。
- (事務局) 大人、親からの目線ではなく、青少年の立場での表現がいい。
- (委員長) ここは原文を生かしたい。実際、費用の出どころは、様々である。
- (委員) スマホの費用が親に負担をかけているということか。
- (教育長) 自分で稼いでいないのに、情報端末の所有は当たり前になっている。子どもの所有率も高く、使用時間も高い。
- (委員長) 他に何か気づいたところなどはあるか。
- (委員) 3 ページだが、(1)、(2)と段落付けをしているので、行頭に1文字スペース入れた方がいい。修正などではないが、4 ページの「子ども居場所づくりをする」ところでだが、ボランティアさんが富士見が丘の児童館で放課後に子どもが集まれるようにと居場所を作っていた。具体的にそういったものがここで示されると、実施できない所もあるが、保護者のニーズが高いところではあるので示していくことができれば。
- (委員長) テーマ研究全体における「青少年」の対象について、今一度確認したい。1 ページに「便宜上、青少年を小学生から大学卒ぐらい」と記載しているが、文章中では、「青少年」を子どもと青少年と適当に使い分けている。そこについてどう捉えていくのか、話していきたい。
- (委員) 子ども会は、小学生である。
- (委員) 2 ページに「高校生の姿が見えない」とあるように、対象については高校生まではいいが、大学生はちょっと違うように思う。
- (委員) 大学生については、文章中に出てきていない。
- (委員) 20 歳前半という意味で、大学卒ぐらいとし、20 歳を一つの目安にしたのではないかと思う。
- (委員長) シニアリーダーに 20 歳前後の子がいたかと思うが。
- (事務局) シニアリーダーは概ね 20 歳としており、大学生はいる。
- (委員) ただ全ての人が大学に行くとは限らないので、大学卒はどうかと思う。
- (委員長) 大学卒というのは変更として、文面上、どう考えるか。
- (委員) 文面では、高校卒という感じがする。

(事務局) インターネットで各種法令上の青少年を見てみると、18歳か20歳のようにある。少年法だと20歳未満、児童福祉法だと18歳未満であり、18歳未満か、20歳未満というところではないか。

(委員長) シニアリーダーは現在、何人ぐらいいるのか。一番年齢が高い子は何歳か。

(事務局) 現在8人おり、20歳の子がいる。

(委員) 大学卒という言葉は、様々な子どもの状況があるのでどうかと。

(委員長) それでは青少年を「小学生から概ね20歳ぐらいとする」でよろしいか。

(事務局) 「概ね」と「ぐらい」が重複しているので、どちらかにした方がいい。

(委員) 「20歳」の記載は、算用数字か漢数字のどちらにするのか。

(事務局) 漢数字の方が「二十歳」のイメージがある。

(委員長) それでは漢数字の「二十歳」とし、「小学生から二十歳ぐらい」に変更をする。

4 その他

- ・委員出張関係 ※委員より報告
- ・平成29年度二宮社会教育委員関係事業予定について調整。

5 閉会 15時45分閉会